

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	48人	算数	48人	理科	48人
第5学年	国語	43人	算数	43人	理科	43人

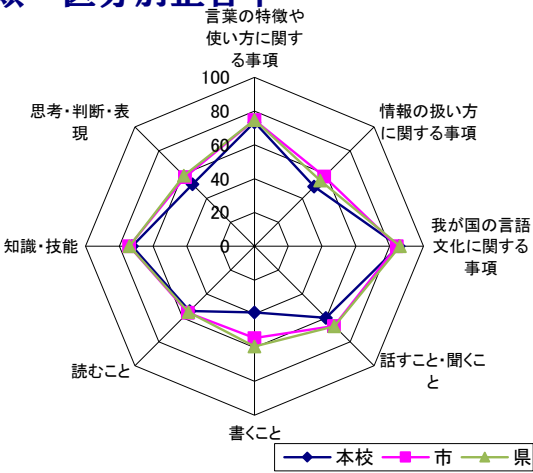
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.4	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	50.0	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	85.4	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	59.9	66.7	66.9
	書くこと	39.1	54.3	59.3
	読むこと	54.2	55.6	55.2
観点	知識・技能	72.4	74.1	74.0
	思考・判断・表現	51.8	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

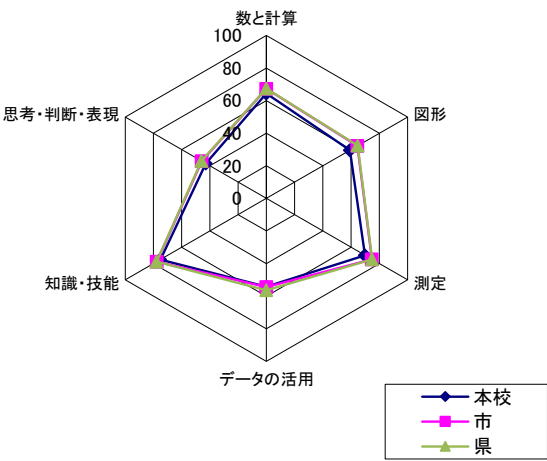
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字の読みに関する問題では、どの問題においても正答率が県の正答率と同程度であった。 ●ローマ字についての問題では、正答率が47.9%であり、県の正答率を11.2ポイント下回った。	・ローマ字では、促音の表記の仕方、bとdの誤りが多かったので、ローマ字の表記に関しての指導を繰り返し行うことで定着を図っていく。
情報の扱い方にに関する事項	●国語辞典の使い方にに関する問題では、正答率が50.0%であり、県の正答率を5.0ポイント下回った。	・国語辞典で言葉を見付けるだけではなく、その言葉がどのような意味で使用されているのか、どんな使用方法があるのかについてもしっかりと指導していく。辞書の見方として、「意味」「文例」を意識させていく。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字のへんとつくりに関する問題では、正答率が85.4%であり、県の正答率と同程度であった。	・新出漢字を学習する際に部首を確認したり、漢字の構成について考えさせたりするなど、日頃の授業の中で漢字に対しての意識を高めていく。
話すこと・聞くこと	●話し方の工夫を捉える問題では、正答率が60.4%であり、県の正答率を15.7ポイント下回った。 ●意見について自分の考えをまとめる問題では、正答率が66.7%であり、県の正答率を7.8ポイント下回った。	・話し合いを行う際、日常的に最初に話題を提示することを行っているので、それが話し合いの工夫という正答につながらなかった。それも司会としての工夫の一つであることを意識させる。さらに、日常的に話し合いの型をきちんと与え、司会者としての技術を身に付けられるようにする。 ・話し合いの基本として、改まった場面では敬体で話すということを継続的に指導していく。
書くこと	●指定された長さで文章を書く問題では、正答率が31.3%であり、県の正答率を24.5ポイント下回った。また、無回答率が35.4%であり、県の無回答率より16ポイント上回った。	・書く習慣を身に付けるため、継続的に行っている朝の学習の作文の時間に、文字数や段落を指定した作文練習を行うようにする。低学年から視写を行うことで段落の書き方を身に付けさせ、読むことの授業を行う際に段落構成を意識させる指導を行う。
読むこと	○登場人物の気持ちを叙述を基に読み取る問題では、正答率が91.7%であり、県の正答率を6.3ポイント上回った。 ●段落の内容を捉え、前半・後半を分ける問題では、平均正答率が4.2%であり、県の正答率を10.5ポイント下回った。	・物語文より、説明文の方が正答率が低いことから、説明文の授業に力を入れて行くことが必要である。今後、説明文の学習では、段落ごとの要点を的確に捉えるようにキーワードに着目させながら要点をまとめさせていく指導を行う。さらに段落相互の関係を意識させ、段落構成の意味を正しく理解できる授業を展開していく。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.4	67.3	67.4
	図形	59.2	64.5	64.7
	測定	69.8	74.7	74.9
	データの活用	54.2	54.4	56.4
観点	知識・技能	75.1	77.6	77.8
	思考・判断・表現	42.9	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

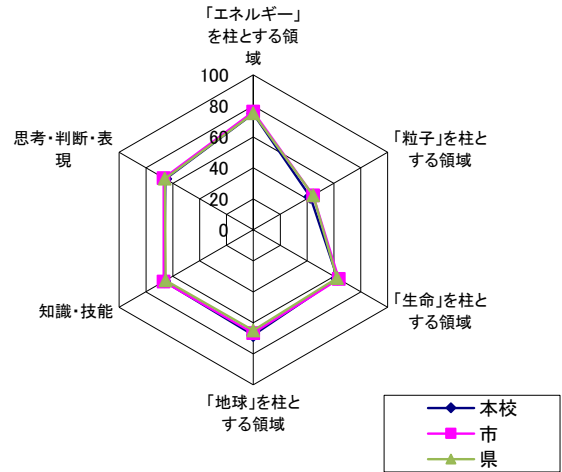
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数量の関係について□を使って正しく表された図を選ぶ問題では、正答率が91.7%で、県よりも10.8ポイント上回った。 ○「3けた+3けた=4けたの計算をする」問題では、正答率が97.9%で、県より9.3ポイント上回った。 ●数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題では、正答率が20.8%で、県よりも25.9ポイント下回った。	・分数の数量的な理解が十分には定着していないので、数直線を活用し、いくつに分けた一つ分なのかを意識して指導する。 ・大きな数のしくみが十分には定着していないので、数直線や位取り表を活用して、再度定着を図る。
図形	○二等辺三角形の作図問題では、正答率が91.7%で、県よりも7.3ポイント上回った。 ●円の中心とコンパスの使い方に関する問題では、正答率が45.8%で、県よりも14.2ポイント下回った。	・コンパスの使い方が十分には定着していないので、継続的に授業の中でコンパスを使って、作図等を行う学習を充実させる。
測定	○地図から道のりを読み取って、その和を求める問題では、正答率が93.8%で、県よりも5.8ポイント上回った。 ●はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題では、正答率が25.0%で、県よりも26.1ポイント下回った。	・はかりの読み方が定着していないので、身近な物をはかりで測り、重さを読み取る活動を多く取り入れるようにする。
データの活用	○棒グラフを読み取る問題では、正答率が93.8%で、県よりも4.6ポイント上回った。 ●1目盛りの数が異なる2つの棒グラフを読み取る問題では、正答率が14.6%で、県よりも9ポイント下回った。	・複数の棒グラフをあわせた読み取りが十分には定着していないので、複数の棒グラフから数量や目盛りの大きさをよみとる類題に取り組ませる。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.0	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	42.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	62.7	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	67.9	66.6	64.9
観点	知識・技能	66.4	66.8	65.4
	思考・判断・表現	65.5	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法についての問題では、正答率が77.1%で県の正答率を6.6ポイント上回った。 ●電気を通す性質に関する問題では、正答率が52.1%で県の正答率を9.6ポイント下回った。	・考察の際に電気を通す物、通さない物が何でできているのか、どうして電気を通したり、通さなかったりするのかわ、踏み込んで考えることができる場を設定する必要がある。
「粒子」を柱とする領域	○ものの形と重さについて、人間の体重に関する問題では、正答率が16.7%で県の正答率を6.8ポイント上回った。 ●形を変えた粘土の重さについての問題では、正答率が37.5%で県の正答率を8.2ポイント下回った。	・予想の段階で、あらゆる条件や場面を自ら考えさせることで、それらによって重さはどのように変化するかに関する基礎・基本を確実に定着させていく。
「生命」を柱とする領域	○昆虫の足のつき方に関する問題では、正答率が89.6%で県の正答率を7.2ポイント上回った。 ●クモが昆虫ではない理由を記述する問題では、正答率が56.3%で県の正答率を13.4ポイント下回った。	・昆虫の体のつくりについて基礎・基本を十分に理解させた上で、昆虫ではない生物について発展的な学習の場を設定する。その際、なぜ昆虫に分類されないのかについて、自分の考えをまとめられるように、注目すべき観点を提示する工夫が必要である。
「地球」を柱とする領域	○太陽の動きに関する問題では、正答率が58.3%で県の正答率を14.4ポイント上回った。 ●かげの記録についての問題では、正答率が41.7%で県の正答率を10.9ポイント下回った。	・太陽とかげについての観察を1日を通して確実にを行い、太陽の位置とかげの向きがどのように変化したのかを詳しく記録させる。その際、時間に対してかげの動いた角度の変化等記録の観点を示すようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている」の設問に関しては、肯定的割合は68.7%と平均を12.7ポイント上回っている。授業に臨もうとする意識の高さや自主学習などを活用し、先に学習しようとする意識が高いと思われる。

○「家で、学校の授業の復習をしている」の設問に関しては、肯定的割合は81.2%と県平均を17.9ポイント上回っている。授業で学んだことを確かなものにしようとする意識が高いことや宿題や課題を確実にこなそうとする児童が多いことが考えられる。

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」という設問に関しては肯定的割合は91.7%と県平均を25.3ポイント上回っている。自主学習を活用して復習する児童が多い。テストや授業などで自分の苦手なところを復習する大切さをこれからも継続して指導していきたい。

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という設問に関しては72.9%と県平均を12.2ポイント上回っている。学ぶことの楽しさや大切さを感じている児童が多い。今後も学ぶ楽しさを各学級で伝えていきたい。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の設問に関しては、肯定的割合は93.8%と県平均を10.1ポイント上回っている。課題解決力の高いことがわかる。解決する方法を複数提示することや解決の際の過程を説明できるようにすることで、より確実に解決できる力につなげたい。

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の設問に関しては、肯定的割合は83.3%と県平均を9.5ポイント上回っている。意欲的に取り組んでいることを大切にしつつ、認め励ましながら更なる意欲の向上につなげたい。

●「学校の授業以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾や家庭教師も含む)。」の設問に関しては、「30分より少ない」という回答が25.0%と県平均より10.9ポイント上回っている。習い事など家庭の都合で学年に合った勉強時間に届いていないことが予想される。理解を示しつつ今後も啓発を図っていきたい。

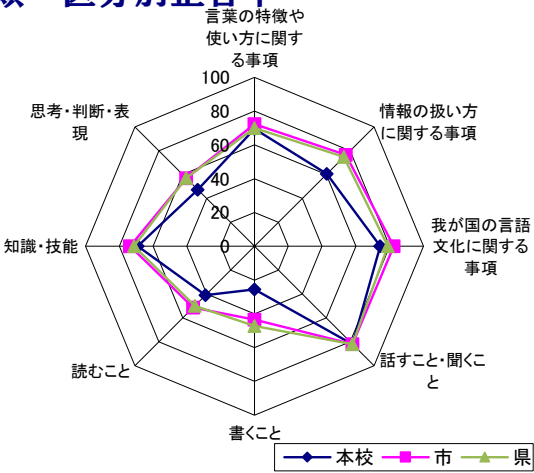
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことがむずかしい」の設問に関しては70.9%と県平均を8.2ポイント上回っている。自分の考えのまとめ方が分からなかったり、どんな言葉を使うとまとめやすいか悩んだりすることが多いことが予想される。授業や宿題の工夫を通して考えをまとめる練習を行っていくとよい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の設問に関しては、肯定的割合は41.7%と県平均を12.9ポイントを下回っている。上記と関連して自分の考えがまとまらないことが発表の苦手意識につながっていると思われる。考えや意見をまとめる練習と発表する練習の両方の学習を充実させる。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.5	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	60.5	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	74.4	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	82.0	81.9	82.0
	書くこと	25.6	43.5	47.2
観点	読むこと	41.0	51.4	49.8
	知識・技能	69.1	73.6	71.3
	思考・判断・表現	47.4	57.1	57.2



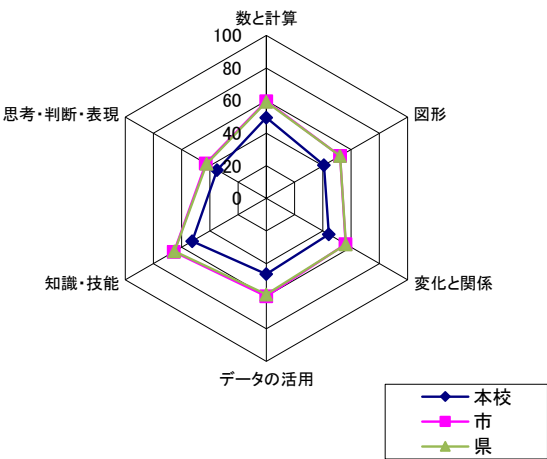
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○連帯修飾語に関する問題では、正答率が69.8%であり、県の正答率を4.1ポイント上回った。また、「連用修飾語」に関する問題でも、正答率が27.9%で県の正答率を5.6ポイント上回った。 ●漢字を書く問題では、「衣類」の正答率が48.8%で、県の正答率を9.6ポイント下回った。また、「改める」の正答率は、48.8%で県の正答率を6.4ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字練習をする際、既習の漢字を文章の中で正しく使えるようにする。また、単語ではなく文章で書く小テストを行うことで漢字の定着を図る。言葉の意味を捉えることができるように、学年の学習内容に即した著者の読書を奨励するなど、新しい言葉に触れさせることで語彙力を増やす。
情報の扱い方にに関する事項	●漢字辞典の使い方にに関する問題では、正答率が60.5%で、県の正答率を14.4ポイント下回った。	・漢字辞典の使い方を復習するとともに、漢字辞典を使って漢字を調べる機会を増やす。 ・漢字の学習をするときに、画数や部首を確認する。
我が国の言語文化に関する事項	●ことわざに関する問題では、正答率が74.4%で県の正答率を4.5ポイント下回った。	・宮っこダイアリーを活用し、ことわざや慣用句に適宜触れられるようにする。
話すこと・聞くこと	○話し手の工夫の共通点を説明した文を選ぶ問題では、正答率が83.7%であり、県の正答率を5.3ポイント上回った。 ●意見の共通点に着目して、司会者の発言に適する内容を書く問題では、正答率が60.5%で県の正答率を9.5ポイント下回った。	・授業の中で意図的に要点を押さえて話を聞いたり、メモをとったりする機会を設ける。
書くこと	●文章を書く問題において、無回答率が44.2%で、県の無回答率より22.7ポイント上回った。 ●指定された長さで文章を書く問題では、正答率が25.6%で、県の正答率を27.1ポイント下回った。	・書く問題がテストの後半に設けられていたため、無回答率が増えてしまったと考えられる。そこで、時間の配分を意識して作文を書く練習を意図的に取り組んでいく。 ・文字数や段落などの条件を付けた作文を書く練習をさせる。
読むこと	●物語文で登場人物の性格について捉える問題では、正答率が27.9%であり、県の正答率を11.3ポイント下回った。 ●説明文で文章の内容を説明した文を選ぶ問題では、正答率が46.5%であり、県の正答率を16.7ポイント下回った。	・物語文を読む際に、登場人物の性格を文章中の表現から考えることを今後も継続していく。また、キーワードに着目して読むようにさせる。 ・説明文の構成について、接続詞に注目させることで段落ごとのつながりを意識できるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	49.6	59.7	59.2
	図形	40.7	52.1	52.1
	変化と関係	44.2	56.1	56.3
	データの活用	46.5	60.1	58.9
観点	知識・技能	52.6	65.5	65.1
	思考・判断・表現	34.9	42.9	42.4



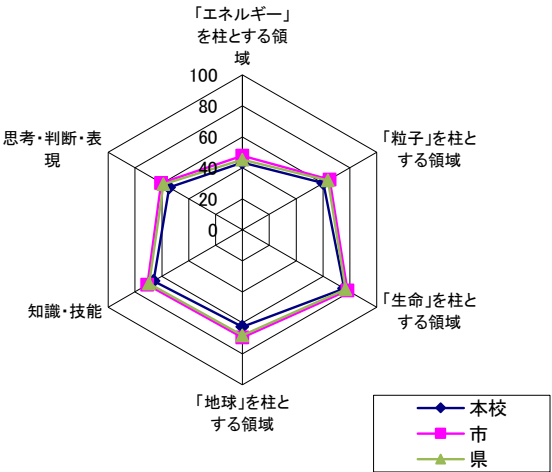
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○概数を使って目的に応じて正しく見積もっているものを選ぶ問題では、正答率が30.2%で、県の正答率を2.4ポイント上回った。 ●小数÷整数の商を割り切れるまで求める問題では、正答率が46.5%で、県の正答率を17.3ポイント下回った。 ●()を使って、四則混合計算の順序を正しく表す問題では、正答率が23.3%で、県の正答率を26.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的なわり算のひっ算の練習を繰り返し行うことで、商の求め方やあまりの出し方の定着を図る。 ・四則混合計算の練習を繰り返し行うことで、計算の順序についての理解を図り、()の使い方を定着させる。
図形	●三角定規の角度を理解しているかどうかをみる問題では、正答率51.2%で、県の正答率を14.5ポイント下回った。 ●1㎡が何cm²になるかという、面積の単位の関係を説明する問題では、正答率14.0%で、県の正答率を13.8ポイント下回った。	・多角形の内角を図る学習や日常生活において、2つの三定規を用いて角度を予想したり図ったりする活動を行うことにより三角定規の3つの角の大きさを理解させ、学習に生かせるようにする。 ・面積の単位の関係を考えるときに図や絵を使って考えさせたり、実際にかかせたりすることで、視覚的に認識させ、正しく単位変換ができるよう指導する。
変化と関係	●2つの数量関係について、正しく表されたテープ図を選ぶ問題では、正答率51.2%で、県の正答率を18.0ポイント下回った。 ●表を横に見て、周りの長さがいくつふえているかを答える問題では、正答率が62.8%で、県の正答率を18.6ポイント下回った。	・割合を求めるときに、絵や図、数直線を使って「比較量」と「基準量」の関係を認識できるよう、多くの問題に取り組ませ、文章を読み取る力を高めていき習熟を図る。 ・変わり方調べでは、多くの問題に取り組ませ、伴って変わる2つの数量の関係を見出させ、表の見方について習熟を図る。
データの活用	●2つの折れ線グラフから分かることを答える問題では、正答率が65.1%で、県の正答率を12.6ポイント下回った。 ●二次元表から、条件にあてはまる部分を選ぶ問題では、正答率が65.1%で、県の正答率を14.8ポイント下回った。	・折れ線グラフと表では、2つの折れ線グラフから、グラフの一目盛りの量に注目させるなど必要なことを正しく読み取らせるとともに、数多くの問題に取り組ませ、データを読み取る力を付けるようにする。 ・データをもとにして表を作る活動を日常に取り入れることにより、二次元表から、条件にあてはまる部分や数を理解できるよう習熟を図る。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	43.4	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	60.3	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	75.8	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	62.6	69.5	68.1
観点	知識・技能	66.2	70.8	69.5
	思考・判断・表現	54.6	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○乾電池のつなぎ方の理解の問題については正答率が62.8%で、県の平均より5.0ポイント上回っている。 ●簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える問題については、正答率が14.0%で、県の平均よりも9.7ポイント下回っている。	・授業の予想を立てる段階で、科学的根拠を明確に示して考えることを児童に強く意識付けさせ、常に原因と結果を考えながら取り組めるよう指導する。 ・実験の結果から分かることは何か、どのような法則があるのかなどを考える時間を確保する。
「粒子」を柱とする領域	○水と空気を温めたとときの体積の変化を理解する問題については正答率が69.8%で、県の平均より12.8ポイント上回っている。 ●実験の結果と身の回りの現象と結び付けて考える問題については正答率が41.9%で、県の平均より19.5ポイント下回っている。	・実験などの体験的活動を効果的に取り入れ、児童の粒子に対する理解を深められるようにする。 ・学んだ知識を生活の事象と結び付けられるような授業の展開に努める。
「生命」を柱とする領域	○腕を曲げたときの筋肉の様子を理解する問題については正答率が79.1%で、県の平均より5.1ポイント上回っている。 ●季節によって気温や動物の様子が違うことを理解する問題については正答率が74.4%で、県の平均より7.5ポイント下回っている。	・自然豊かな環境に生活している児童が多い割に、身近な動物について注意深く観察していない児童が多い。今後は、季節ごとの自然観察の授業において、観察のポイントを意識した上で、自然に触れ合う機会を多く設定していく。 ・生活と関連付けて考えることができるように、身近なものや事象を取り上げながら、既習内容を使って説明する活動を多く取り入れる。
「地球」を柱とする領域	○土の粒の大きさと水たまりのできやすさの関係を理解する問題については正答率が74.4%で、県の平均より13.3ポイント上回っている。 ●水の流れと地面の傾きについて理解する問題については正答率が25.6%で、県の平均より12.6ポイント下回っている。	・学習の過程で、結果を予想したり、予想を確かめるための方法を考えたりする活動を行い、見通しをもって学習に取り組めるように工夫する。 ・与えられた条件に合わせて文章を書く力を身に付けられるよう指導していく。

宇都宮市立国本中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の予習をしている。」の肯定的回答が県平均より6ポイント、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定的回答が県平均より6.3ポイント上回ったことから、学習に対して前向きで主体的に取り組もうとしていることが分かる。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」の肯定的回答が県平均より16.2ポイント、「自分には、よいところがあると思う。」の肯定的回答が県平均より6.3ポイント上回ったことから、児童が有用感を高くもち、学校生活を送っていることが分かる。

○「ふだん(月～金)、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか。」では、9時間以上の回答が県平均より5.7ポイント高く、早寝早起きを意識して、規則正しい生活を送れていることが分かる。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強している。」の肯定的回答が県平均より11.3ポイント、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定的回答が県平均より4.5ポイント下回った。学習に対して前向きに取り組んでいるが、復習に力を入れている児童が少ないことから、復習の大切さを実感できるよう指導をしていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の肯定的回答が県平均より7.1ポイント下回ったことから、自分の考えを文章にまとめることが苦手とする児童が多いと考えられる。授業や朝の学習、宿題で文章を書く機会を増やし、タブレットを活用した授業で抵抗感なく自分の考えを文にする活動を取り入れることで、自分の考えを文章にまとめて書く力を付けていく。

●「ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)。」の回答で、3時間以上の解答が県平均より5.3ポイント上回った。規則正しい生活を意識して送れているが、テレビやDVD、動画を見る時間が多く、家庭学習の時間が十分に取れていないことが考えられる。家庭学習の取り組み方について指導するとともに、テレビやDVD、動画を見る時間の設定においては家庭にも協力を仰ぎながら改善に向けて取り組んでいく。

宇都宮市立国本中央小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「書くこと」への苦手意識を減らすための取組	朝の学習の時間等を活用した100字程度の視写と作文練習の実施。	4年生・5年生とも、国語・算数・理科の教科において無回答率が、県・市の反応率と比較して高い。特に、記述式においての無回答率が高い。
家庭学習への取組	適切な質と量を考えた宿題の提示、自主学習の取組を認め励ます指導、保護者への啓発。	4年生・5年生とも、家庭で授業の予習を行っている児童の割合が県と比較して多い状況にある。今後も継続して、児童の家庭での取組を認め励ましながら、家庭学習の習慣化と学習内容の定着を図りたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関わる調査において、国語のことわざやローマ字、算数の計算や数直線の見盛りといった基礎基本の問題で、県の正答率を下回った。	朝の学習の時間や授業の最初の5分を活用して、学習内容の定着を図る指導の工夫。	・宮っこステップアップシートを実施する。 ・ことわざやローマ字、計算等の復習を授業の最初の5分で行う。